

甲 第 号

松岡 究 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

報告番号	甲	第	号	氏名	松岡 究
論文審査担当者		委員長		教授	長谷川正俊
		委員		教授	吉川公彦
		委員		教授	岸本年史
		(指導教員)			

主論文

Microstructural differences in the corpus callosum in patients with bipolar disorder and major depressive disorder

気分状態に依存しない双極性障害と大うつ病性障害における脳梁の白質微細構造の差異

Kiwamu Matsuoka, Fumihiko Yasuno, Toshifumi Kishimoto, Akihide Yamamoto, Kuniaki Kiuchi, Jun Kosaka, Kazuyuki Nagatsuka, Hidehiro Iida, Takashi Kudo

Journal of Clinical Psychiatry 第78巻 第1号 99-104頁

2017年1月発行

論文審査の要旨

双極性障害と大うつ病性障害の鑑別が困難な症例が存在するが、鑑別が治療法の選択にも影響するため、客観的な鑑別マーカーの探索は重要な課題である。本研究では、拡散テンソル画像を用いて、気分状態に依存しない両疾患における白質微細構造の差異を検討し、鑑別マーカーとしての有用性について評価している。双極性障害患者 16 例、大うつ病性障害患者 23 例、健常者 23 例についての検討で、DSM-IV-TR に基づいて診断を行い、双極性障害患者と大うつ病性障害患者では、抑うつ状態か平常状態である患者を対象としている。MRI 撮像と心理検査を行い、拡散テンソル画像を解析し、双極性障害患者と大うつ病性障害患者における fractional anisotropy 値の差異を全脳的に検討して、有意な fractional anisotropy 値の差異が認められた部位に関心領域を置き、fractional anisotropy 値、axial diffusivity 値、radial diffusivity 値、mean diffusivity 値についての比較を行い、さらに fractional anisotropy 値を用いて、双極性障害と大うつ病性障害をどの程度鑑別可能かの評価も行っている。抑うつ状態か平常状態にある双極性障害患者では健常者と比較して、脳梁において radial diffusivity 値と mean diffusivity 値の増大を伴う fractional anisotropy 値の低下がみられことを明らかにし、これらの拡散テンソル画像における変化が白質微細構造の異常を反映していることを示唆している。さらに、年齢と性別によって補正した fractional anisotropy 値によって、双極性障害患者と大うつ病性障害患者を 76.9% の割合で識別することができたことも報告している。

本研究は双極性障害患者と大うつ病性障害患者の鑑別に有用な成果を報告した貴重な研究で、今後の臨床研究の発展も期待され、医学博士の学位に値する有意義な研究と評価される。

参 考 論 文

1. Delayed atrophy in posterior cingulate cortex and apathy after stroke
Kiwamu Matsuoka, Fumihiko Yasuno, Akihiko Taguchi, Akihide Yamamoto, Katsufumi Kajimoto, Hiroaki Kazui, Takashi Kudo, Atsuo Sekiyama, Soichiro Kitamura, Kuniaki Kiuchi, Jun Kosaka, Toshifumi Kishimoto, Hidehiro Iida, Kazuyuki Nagatsuka
Int. J. Geriatr. Psychiatry 30 : 566-572, 2015
2. Microstructural changes of the nucleus accumbens due to increase of estradiol level during menstrual cycle contribute to recurrent manic episodes - a single case study
Kiwamu Matsuoka, Fumihiko Yasuno, Makoto Inoue, Akihide Yamamoto, Takashi Kudo, Soichiro Kitamura, Koji Okada, Kuniaki Kiuchi, Jun Kosaka, Hidehiro Iida, Toshifumi Kishimoto
Psychiatry Res. 221 : 149-154, 2014

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに精神医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

平成 29 年 3 月 7 日

学位審査委員長

総合病態放射線腫瘍学

教授 長谷川正俊

学位審査委員

画像診断・低侵襲治療学

教授 吉川公彦

学位審査委員（指導教員）

精神医学行動神経科学

教授 岸本年史